小児科 科長
長澤 克俊
ながさわ かつとし

こんにちは
診察室です。

小児期の地域包括ケア

はじめに

小児科は感染症などの急性疾患への医療対応だけでなく、予防接種・乳幼児健診・園医学校医などの保健領域への対応や、福祉と連携した障がい児への対応、集団場面で行動異常のある子どもへの保育・教育と連携した対応など、保健・医療・福祉・教育の連携を構築していくことを含め幅広い対応を行っています。これらのことは当財団の理念に一致し、小児期の地域包括ケアシステムを構築していくことになります。

小児科医の取り組み

2018年10月、福島市において、「小児の発達障害・地域の小児科医にできること」をテーマとして第36回東北・北海道小児科医会連合会総会が行われました。小児科クリニックにおいて、保護者が発達障害を心配したり、保育・教育現場で発達障害を疑われたりして受診するケースが増加しており、療育センターなどの専門機関を紹介しようとしても数カ月以上も予約が取れない現状が紹介されました。また、療育センターなどの専門機関でも、受診数の増加に対応できない現状も紹介されました。また、福島県立医科大学子ども女性医療支援センター教授の横山浩之先生による「最近の子どもの行動異常とその対策」というテーマの特別講演も行われました。注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症などの通常学級で特別支援教育が必要な子どもは文部科学省の調査では6・5％程度で変わっていないにも関わらず、保育・教育現場では気になる行動を示す子どもが著しく増加し、その頻度は20％を超えており、その原因は発達障害だけでなく、さまざまな環境上の問題の可能性があるとのことでした。「早寝・早起き・朝ごはん」が守られず、「スマホによる子育て」が増えているといった生活リズムや親子の安定したコミュニケーションが大切にされていない育児環境の蔓延や、虐待を含むマルトリートメントによって愛着形成に失敗している子どもの増加が原因となっている可能性があり、それに対応するためには、日本小児科医会が取り組んできた子育て支援を強化することや、愛着形成を獲得させる取りくみを強化することが必要とのことでした。

当科の取り組み

横山浩之先生には、当科で月に1回の発達特診をお願いしており、そこで発達障害やZeanah（ゼィーナ）らが提唱するattachment disorder（愛着障害）の診断基準(1)を満たすケースへの対応などを行っています。当科小児科医師が同席して、対応方法を学んでいます。「小学生になるまでにできてほしいこと」をプリントにして保護者に繰り返し指導を行ったり、ペアレントトレーニング手法を指導したりしています。また保育士、教師、保健師などと診察室で情報交換を行うことで連携し、集団に対するペアレントトレーニング手法と父親役と母親役に分かれてチームで対応する方法を紹介しております。この方法は愛着が形成されていないために起こる行動異常に対して有効であることが確かめられています(2)。また、注意欠如・多動症に対する薬物療法も積極的に行っており、継続支援しているケースも増加しています。

「小学生になるまでにできてほしいことプリント」「遊びは子どもの主食ですポスター」（図2）などで生活習慣の重要性について普及啓発に努めています。また、ペアレントトレーニング手法についての研修会を開催し、地域の子どもに関わる各職種への普及啓発に努めています。行動異常を示す子どもの早期発見・早期介入は2次予防と言いますが、乳幼児健診への協力や学校・保育所・幼稚園との連携、子どもの発達相談支援事業所の開設を行っています。行動異常を示す子どもの発達を支援し、行動異常がなくなり、自立が可能になるように成長を促す3次予防としては、行動異常を呈するケースに対する外来の整備・拡大、リハビリテーション部言語・発達支援係の活動継続、児童発達支援事業所「ふらっぷ」の拡大、訪問看護と連携した重度障害児への対応などがあります。学校への適応が困難となり不登校状態になってしまった子どもへの対応は検討課題としています。

当財団の取り組み

Vision-TAKEDA-2020における地域包括ケアの全体図（図1）を示します。予防医学的な視点で小児期の対応を見ますと、すべての子育て家庭に普及啓発していくことを1次予防と言いますが、子育て支援、家族支援、ペアレントトレーニングの導入があります。

図1 竹田地域包括ケアシステム全体図

図2「遊びは子どもの主食ですポスター」

おわりに

今後も会津地域の保健・医療・福祉・教育の連携が強くなり、小児期の地域包括ケアシステムが確立することによって、会津に生まれた子ども達が立派に成長し、自立した健康で文化的な生活を送れるように微力ながら努力していきたいと思いますので、ご指導ご協力の程、何卒宜しくお願い致します。

◎参考文献…(1)Zeanah CH, Boris NW. Disturbances and disorders of attachment in early childhood. IN Zeanah C(ed). Handbook of infant Mental Health. 2nd ed n. Guilford Press. New York. 1997
(2)Hiroyuki Yokoyama, et al. Peditrics International 2018：60：1051－1055